

を得しが昨年秋山崎先生が大竹君等と小笠原母島に得られたるオルビトイデスは特に貴重なるものにて同氏の好意により余は實驗を試みたるに此ものは疑ひもなく Orthophragmina 組に編入さるべきものにて其形は星状なり徳永氏によれば今迄氏のみたる日本のオルビトイデスは Lepidocyelina 組のものなりと云ふが故に或は此の化石は此発見が最初なるならん、一昧印度大平洋の諸島にオルビトイデスは屢々第三紀中に出るとあるも Orthophragmina の中星状のもの一乃ちギムベール氏の Aktinoeyelina, 及び Asteocyelina は珍らしき方なり千八百八十年マルチン氏がデヤワより Orbitoides radiata と記せるものはシユルンベルガー氏は反てペンビドチクリナなるべしと論じ、千八百八十八年にはハウチン氏ビクトリアのエオシン層より O. stellata d'Archiac. を記したりエンニング氏が北ボルネオより O. stellata なるものを擧げたれ共ニュートン、ホルランド、シユルンベルガー三氏共に之れを疑へり此くの如き次第なれば小笠原母島より真正の stellat. Orthophragmina の出るとは著るしきとの一に數へたるべからず

○瓜漏河層(支那) 小川學士が北支那化石發見地

畧報として本誌前號に記載せられたるもの、中に山東省章邱縣の南朱家務の瓜漏河層 (Kwalolo bed) 哺乳類化石の出でたることを記載せられたるが此獸齒の一ヶは Hipparion Richtofenii Koken の齒にして上顎右側の第二又は第三のものなり故に此地層の時代は略定するを得べし又此動物の化石が如何に支那に普通なるかは近頃シユロツサー氏はハーペラー氏の採品中に其齒が千個も含むておると記せるにて知るを得べし

○南島鳥より神保教授の採集せられたる介類等標品

Conus Hebraeus Linn.

Nicirula ricinus Linn.

„ (sisitium) tuberculatus Blainv.

Cypreaa reticulata Martin?

Tridacna gigus Lam.

Heterocentrotus mammillatus Klein.

尙他に Lithothamnium あり此ものは遠藤理學士によれば恐らく一新種なるべしと甚だ特有の形狀を呈せるものなり(やべ)

○グラウコニア 外國の白堊紀層に普通に出る腹